

第49回運営小委員会 議事録

1. 開催日時：令和4年11月10日（木） 16:00～18:45
2. 開催方法：Webexによるオンライン開催
3. 出席者：渡邊、阿部（東北大学）、山下（東京大学）、室屋（大阪大）、高木・山本（東芝 ESS）、宮澤（東京電力 HD）、荘田（三菱重工）、伊藤（日立）、長瀬（日立 GE）、河村・藤原（電中研）、大橋（オルガノ）、勝村（東京大学名誉教授）、端（JAEA）、杉野（日本原電）
【敬称略、順不同】

4. 議事

(1) 前回議事録の確認

前回運営小委員会議事録について了承された。

(2) 第44回定例研究会について

山本委員（定例研究会 WG 担当）より、資料に基づき次回の定例研究会の基調テーマ案及び次回定例研究会の案が説明され提案の通りに了承された。

次回は対面方式とし、テーマを PWR 一・二次系および AWC2022 の概要とし、2023 年 3 月 16 日に三菱重工横浜ビルで開催することで決定された。

また、水化学部会賞受賞者による受賞記念講演について、受賞者に依頼することとした。

なお、定例研究会 WG の現委員に PWR メーカーが入っておらず、PWR のテーマ選定に苦慮していることから、PWR メーカーの若手に WG に参加頂いてはどの提案があり、検討結果について 11 月 18 日（金）を目処に荘田委員から山本委員宛に回答することとなった。

(3) 2023 年春の年会企画セッションについて

山本委員（企画担当）より、資料に基づき説明があり、テーマを「プラント再稼働に向けた水化学」とする案が示され、PWR は三菱重工と原電、BWR は日立と東北電力または東芝 ESS から発表することで決定された。

(4) 次期運営小委選挙について

杉野委員より、資料に基づき選挙管理小委員会の発足と年明けに選挙を実施することについて説明があり、提案通り承認された。

(5) 2022 年度部会報の内容案について

大橋委員（広報担当）より、資料に基づき部会報の内容案について説明があり、巻頭文を高木副部会長が執筆することとなった。また特別寄稿として

HWC 技術報告書を山本委員が、水化学ハンドブックの改訂を室屋委員が執筆することとなった。その他 AWC2022 の報告を実行委員が分担して執筆することとした。また、水化学部会賞受賞者による感想と研究概要紹介について、受賞者が決まり次第執筆を依頼することとした。

(6) AWC2022 の実施報告について

阿部委員より、資料に基づき AWC2022 の実施概要が報告され、また Web サイトに保存されたデータ等の保存について相談があり、大橋委員にて部会 HP のサーバーに保存することとした。なお、保存データは Web ページのデザイン、プロシーディングス、業者見積書などとし、個人情報に係るデータは廃棄することとした。

引き続き赤字補填に対する予算申請手続きについて、藤原委員と伊藤委員から資料に基づき説明があった。また学会事務局より、費用精査の過程で業者への相見積もりを取っているのかとの質問がきているとの報告があり、業者への相見積もり関連資料を杉野委員から伊藤委員へ送付し、それを反映した上で総務財務委員会へ資料を提出することとなった。

引き続き長瀬委員から AWC2022 の報告書について紹介があり、内容に関し気づき事項等あれば長瀬委員へ連絡することとなった。

(7) 2023 年水化学サマーセミナーについて

長瀬委員（サマーセミナーWG 担当）より、資料に基づき水化学サマーセミナー2023 の開催案について説明があり、対面での開催、会場は日立シビックセンター、1F 視察（最大 20 名程度）、時期は 2023 年 8 月 2 日～4 日とすることです承された。内容として、発電炉の運用高度化、廃止措置シナリオ、FP 挙動、事故時の水化学制御などの他、若手検討会によるパネルディスカッションなどを計画し、講師については今後依頼することとなった。また交流会の会場はホテルテラスザスクエア日立とし、余興は三菱重工が担当することとなった。

(8) 水化学部会賞（講演賞）の審査結果について

端委員（選考委員）より、2022 年度講演賞の選考結果について説明があり、東北大・北本氏、JAEA・伊藤氏および中部電力・大村氏の 3 名に講演賞を授与することが可決された。

なお、過去の奨励賞受賞者から、同様の内容で講演賞への応募があり、部会賞の趣旨に沿わないことから、部会賞細則に「奨励賞を受賞した者は同様の内容で講演賞に応募することはできない」旨を記載し再発防止を図ることとした。なお、全体会議には本人が参加する可能性もあるため、改定理由を「前例

があった」とはせず、「研究推進の順番として学会発表→論文取り纏めという手順となるため、逆方向は趣旨に合わない」との理由とすることとした。

(9) 水化学ハンドブックの改訂状況について

杉野委員（ハンドブック改訂 WG 幹事）より、予定通り 2022 年 8 月末に発刊されたことが報告され、ハンドブックの改訂は水化学部会の重要なミッションであり、今後も適切なタイミングで改訂していくようにとの意見が出された。

(10) 福島第一原子力発電所廃炉に係る核分裂生成物挙動研究専門委員会について

高木副部長より、資料に基づき説明がなされ、質問事項などあれば個別に問い合わせることとなった。

(11) 事故耐性燃料開発に関する WS への協賛について

杉野委員より、資料に基づき事故耐性燃料開発に関する WS への核燃部会からの協賛依頼について説明があり、水化学部会が協賛となることで可決された。

(11) 部会等運営委員会の報告について

宮澤委員より、資料に基づき部会等運営委員会の活動内容について報告があり、各部会で外部資金を用いて事業を行う際は公正性・透明性を持たせることに関する周知と、海外学協会向け英文年報について、2021 年度の水化学部会事業報告を事務局にて機械翻訳した結果について宮澤委員にて確認した結果が報告された。

(12) 水化学部会の活動に関する若手からの提案について

端委員より、水化学部会を活性化するための若手検討会の設置についての紹介があり、水化学部会の若手の参加を募集することとなった。

(13) 日本原子力学会誌「ATOMO Σ」の特記記事について

大橋委員より、原子力学会誌への特別記事への寄稿依頼について説明があり、河村委員にて執筆することとなった。

その他

次回の運営要小委員会は 3 月 16 日 AM に開催することで決定された。

以 上